

【先週の説教要旨】**「知恵と分別(良識)の民」**

申命記 4:5-8

マタイ 22:15-22

申命記は、長いながいモーセの遺言＝ゆいごん、イスラエルの民へ向けてのお別れの演説です。主はモーセを指導者にしてイスラエルの民をエジプトの奴隷から解放し、シナイ山で律法を与え、律法によって生きるよう彼らを導きました。申命記はモーセが、この過去の出来事を振りかえり、思い起こして、ここに神の救いがあることを示して、これから約束の地に入っていくイスラエルの民に心構えを教えています。

律法（ヘブライ語でトーラー）は、元来「指図」、「教え示す」意味で、創世記から申命記までの五つの文書を指します。けれども一般的には「律法」「法律」は、聞く者に心地よい響きを与えません。日常生活での不自由や拘束性＝しほりを予感させます。律法や掟は外部から与えられたもの、押し付けられたものという性格が強いからです。出エジプト記や申命記を読みすすむと、奴隷からの解放という自由への招きが、時と場所の移動にともない、次つぎと日常生活や信仰生活に対応する掟や法が与えられた印象は否めません。

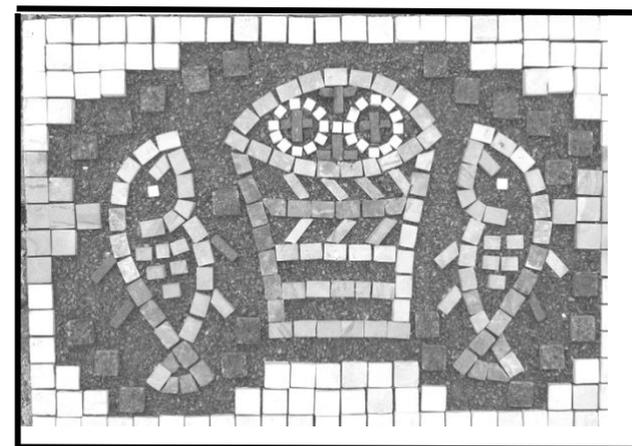
あなたがたが、わたしが教えた掟と法の教えに忠実に従うなら、「諸国の民にあなたたちの知恵と良識が示され、・・・この大いなる国民は確かに知恵があり、賢明な民である」と言われるでしょう（申命記 4:6）。ここでは律法が、彼らの将来を保証することを教えています。律法はイスラエルがイスラエル＝神の民であり続けるための保証、保険のようなものです。知恵は生きる力、良識＝分別は人としての振る舞いです。神の教えに従うことで、日々の暮らしを安心して楽しむことが出来るからです。それゆえ、イスラエルの民は律法を喜び（申命記 4:32 以下）、「蜜よりも、蜂の巣の滴りよりも甘い」（詩編 19:11）と律法をたたえます。

他方、律法は人や事物を聖と穢れ、救いと罪、祝福と呪い、裁きと滅びに分離します。その結果、分け隔て、偏見、差別が生まれ、罪人＝つみびと、異邦人、交際してはいけない人など社会は分断されました。個人的には「心では律法を喜んでいるが、現実には実行できない」（ロマ 7:18 以下）という自己矛盾に苦しみます。「私はなんと惨めな人間なのでしょう。」パウロは叫びました。律法によっては人も世も救われません。この分離、分断、分裂の苦しみを共に担われたのがイエスです。

マタイ福音書は、神の肖像を刻印された人間は、この世の権力者である皇帝ではなく、すべての人が等しく神に従うことを教えています。これが神にかたどって創造された人の知恵と分別（良識）です。あなたは誰のものかという問いです。

日本キリスト教団浦河教会**週報**

No.29 2021年10月17日



教会創立 1956年

〒057-0022

北海道浦河郡浦河町昌平町東通 32

電話 (FAX) 0146-22-2904

牧師 五味 一

電話 (FAX) 0146-26-3043

2021年10月17日 (No29)

主日礼拝

司会：吉田公子 奏楽：松村宣恵

前奏 奏楽者
讃美歌 85 (二回) 一同
祈り 司会者
聖書 イザヤ33章17~22節 (旧約聖書126頁)
マタイ福音書25章1~13節 (新約聖書43頁) 司会者
讃美歌 6 一同
分かち合い 聖書の言葉と一週間 みんなで
讃美歌 575 一同
献金と感謝の祈り 一同
主の祈り 62 一同
頌栄 キリストの平和が (1.5) 一同
黙禱 一同
報告 一同

新しく来られた方・久しぶりの方の紹介

【本日の集会】

主日礼拝 午後2時 場所 カフェぶらぶら
お茶の会 コロナウイルス感染防止のため休会

【今週の集会】

一緒に聖書を読み祈る会 カフェ・ぶらぶら
10月20日 (水) 午後7時
ゼファニヤ書2章4~15 (旧約聖書1471頁)
讃美歌 441、459

【次週の予定】

主日礼拝
10月24日 (日) 午後2時 カフェぶらぶら
聖書 創世記2章4b~9節 (旧約聖書2頁)
マルコ福音書10章2~9節 (新約聖書81頁)
説教 「神の造られた者」 五味一牧師
讃美歌 7、223 (1.2.4.5)

【来週の礼拝司会者を決めましょう】

- ① 和田智子 ② 広瀬秀幸 ③ 吉田公子 ④ 伊藤知之 ⑤ 山根耕平 ⑥ 岸澤恵美 ⑦ 高崎晋 ⑧ 山本潔 ⑨ 早坂潔 ⑩ 荻野仁

【集会統計】

Table with 3 columns: 集会名, 参加者, 献金. Rows include 主日礼拝 (10月10日), 祈禱会 (10月13日).

五味一牧師 本日は定期検診を受けるため休まれました。

本日の讃美歌

讃美歌 6 「つくりぬしを讃美します」。16世紀末のオランダの讃美歌に、アメリカの20歳の女子学生ジュリア・バックリー・キャデイー (1882-1963) が詩を付けたとあります。曲は、オランダの古い民謡をオーストリア人エドヴァルト・クレムザー (1838-1900) が合唱曲として紹介しました。アメリカでは収穫感謝日の歌としても広く歌い継がれています

讃美歌 575 「球根の中には」。詞・曲ともにアメリカ人女性ナタリー・スリース (1930-1992)。幼少よりピアノを学び、カレッジで音楽を専攻し、夫が牧会していたメソジスト教会で音楽監督の秘書として働きながら、教会音楽を学びました。従来の讃美歌とは異なる新しい発想の讃美歌です。アメリカのメソジスト教会では大変好んで歌われているそうです。球根やさなぎは死んでいるように見えますが、そこから花が咲き、いのちがはばたきます。冬と春、沈黙と歌、闇と夜明け、過去と未来、おそれと信仰、死と復活...とさまざまな単語が対になり、たたみかけるように歌われます。この讃美歌の底を流れるのは、永遠の命への希望で歌われています。

頌栄 キリストの平和が

- 1. キリストのへいわが わたしたちのころのすみずみにまでゆきわたりますように
5. キリストのゆるしが わたしたちのころのすみずみにまでゆきわたりますように